

NITEC埼玉産学交流会

概要

1985年(昭60)7月12日設立 会員数22人
事務局所在地 = さいたま市浦和区岸町7の12の4ニチモビル浦和4階
電話 = 048・872・2281

真剣なまなざし

特別賞は3人。中村孝人(ソニーバイオ)、坂戸市社長(再生医療に不可欠な細胞組織を培養するための培地)、日本停滯感に悔しさを覚えるといい、「日本人の匠の精神を引き通すこと」で世界で十分戦えると強調した。小菅哲也(東洋パーツ)、長瀬町長(車部品の下請けメーカー)、社長就任時に超一流の下請けにならうと誓つた。守屋京子(協同)、市社長は「我が社は自動車部品の下請けメーカー」。社員のチーム力と高める取り組みを紹介した。守屋京子(協同)、「地域の皆さまに支えられ、ここまできた。これからも埼玉に根を下ろし、がんばって」と強調した。熱のプレゼンテーションに

会員ら約160人が聞き入った。表彰後の懇親会では宮川正樹(東経済産業局長)、坂本正喜(東財務局長)、上田知事は祝辞で「将来有望な経営者が受賞すること」でさらなる躍進につながると語った。

第9回 埼玉ちやれんじ企業経営者 表彰式



受賞者のさらなる躍進が期待される(「第9回埼玉ちやれんじ企業経営者表彰式」)

日工大と会員企業 講演など交流活発

実験用に制作した小型ヘリコプターなどに、真剣なまなざしを向けた。

毎年の学外研修

埼玉産業人クラブ・NITEC埼玉産学交流会(長谷川勉会長・長谷川鉄工所社長)は日本工業大学と会員企業による産学連携組織。1985年に発足し、現在22人が加盟している。研究室訪問を定期開催

問題解決のための取り組みが、同大学での研究現場で第33回研究現場訪問シリーズでは上野貴博電気電子工学科准教授の研究室を訪れた。上野准教授は自らの研究を「モノを動かすモーターと高信頼性確立の目的」と紹介。接觸不良

長寿化と高信頼性確立の問題を解決するため、講演後、参加者は実際に研究現場を見学。学生らが

研究現場を見学。学生らが

年1回の学外研修もNITECの恒例行事。同年4月には、沖縄県の宮古島を訪れた。参加者は「電気自動車(EV)の普及」をテーマに、研究以外に接觸不良

問題を解決するための取り組みが、NITECの基本方針と強調。「和気あいあい」を言葉に、研修以外に接觸不良

長谷川会長は「産学連携の促進を積極的に開いていきたい」と話す。今後もモーターの性能向上の必要性はさらに高まる」と強調した。

伊良部大橋を見学。島の産業、経済、観光の現状を肌で感じた。伊良部大橋を見学。島の産業、経済、観光の現状を肌で感じた。

長谷川会長は「産学連携の促進を積極的に開いていきたい」と話す。今後もモーターの性能向上の必要性はさらに高まる」と強調した。

伊良部大橋を見学。島の産業、経済、観光の現状を肌で感じた。伊良部大橋を見学。島の産業、経済、観光の現状を肌で感じた。

長谷川会長は「産学連携の促進を積極的に開いていきたい」と話す。今後もモーターの性能向上の必要性はさらに高まる」と強調した。

伊良部大橋を見学。島の産業、経済、観光の現状を肌で感じた。伊良部大橋を見学。島の産業、経済、観光の現状を肌で感じた。

長谷川会長は「産学連携の促進を積極的に開いていきたい」と話す。今後もモーターの性能向上の必要性はさらに高まる」と強調した。

伊良部大橋を見学。島の産業、経済、観光の現状を肌で感じた。伊良部大橋を見学。島の産業、経済、観光の現状を肌で感じた。

長谷川会長は「産学連携の促進を積極的に開いていきたい」と話す。今後もモーターの性能向上の必要性はさらに高まる」と強調した。

伊良部大橋を見学。島の産業、経済、観光の現状を肌で感じた。伊良部大橋を見学。島の産業、経済、観光の現状を肌で感じた。

長谷川会長は「産学連携の促進を積極的に開いていきたい」と話す。今後もモーターの性能向上の必要性はさらに高まる」と強調した。

埼玉でがんばる

会員企業は「和気あいあい」

最終日には、沖縄地方の弦楽器「三線」を製作する弦楽器工房を訪問。伝統工芸の大切さを学んだ。

大学の敷居は低く

お話しになった大川陽康前

日本工業大学理事長の

日本工業大学の敷居をできるだけ低くする」という理念

だけ低くする」という理念

が、NITECの基本方

が、NITE